

サボテンまめちしき

No. 11

日本でのサボテンの歴史

サボテンが日本に渡ってきたのは江戸時代である1680年代だといわれています。ポルトガルから中国へ渡ったサボテンが九州の長崎に持ち込まれ、盆栽でのサボテン栽培がはじまりました。サボテンが持ち込まれて以来、日本の気候に適應するものは少しずつ増えていきましたが、当時はとても貴重でした。

明治時代に入ると殖産興業政策の一つとして、他国の植物が輸入され、その中に30種類のサボテンが含まれていました。明治27年(1894年)にはサボテン栽培を職業とする人が現れ、日本でサボテン栽培が広がっていきました。

※諸説あります

出典：松原 俊雄『につぼんの伝統園芸』（柘の葉書房）2016年



Pick Up! サボテン

和名 空キリン (もくきりん)

学名 *Pereskia aculeata*

写真提供：中部大学堀部研究室

樹木に広い葉をつけ、葉の付け根にトゲがあるサボテンです。原始的なサボテンであり玉型や柱型のサボテンに進化する前のサボテンは、「空キリン」のような樹木に近い形だったといわれています。